

BlcCom2

オペレーション マニュアル

Bits Lan Converter

本製品を正しくご利用いただくために
この取扱説明書をよくお読みください。
また、お読みになりました後もすぐ取り出せる
場所に保管して、必要なときにご活用ください。



株式会社

ビット

はじめに

このたびは、RS-232C/LAN 変換アダプタ「BLC-101」、RS-422・485/LAN 変換アダプタ「BLC-200」(以下 BLC シリーズ)を、お求めいただきありがとうございます。

本書では、「BlcCom2」の概要、一般仕様、インストール手順、操作方法について説明しています。「BlcCom2」をお使いになる前には、必ず本書をお読みください。

本書中では、下記オペレーティングシステムをそれぞれ Windows2000、WindowsXP、WindowsVista、Windows7 のように表記します。これらを総称する場合は Windows と表記します。

Microsoft Windows 2000 operating system 日本語版

Microsoft Windows XP operating system 日本語版

Microsoft Windows Vista operating system 日本語 32 ビット版

Microsoft Windows 7 operating system 日本語 32 ビット版

ご注意

- ・ 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられております。
- ・ 本書に記載された内容は予告なく変更する場合があります。
- ・ 本書の内容については万全を期していますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきのことがありましたら弊社営業までご一報ください。
- ・ 弊社では、製品の運用を理由とする損失、逸失利益などの請求につきましては、本書の不審点や誤り、記載漏れに関わらず、いかなる責任も負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ・ 本書に記載される会社名および商品名は、各社の商法または登録商標です。

目 次

1	「BlcCom2」を使う前に	1
1.1	概要	1
1.2	構成	2
1.3	システム動作条件・一般仕様	3
1.4	制限事項	4
2	BlcCom2 ソフトウェアのインストール	6
2.1	PC側ソフトウェアのインストール	6
2.2	BLCシリーズのセットアップ	13
3	BlcCom2 の使い方	14
3.1	BlcCom2 の起動と終了	14
3.1	メインウィンドウと各部の機能	15
3.4	COMポートの新規登録と更新	17
3.4	対応するBLCシリーズとの接続テスト [個別テスト]	19
3.5	登録リストにある全てのBLCシリーズに対する接続テスト [一括テスト]	20
3.6	登録したCOMポートをアプリケーションからオープンする	21
3.7	登録したCOMポートを削除するには	22
3.8	オプションの設定	22
3.9	ログ表示	25
3.9.1	フォーマット	25
3.9.2	動作状況メッセージ	25
3.9.3	警告エラーメッセージ	26
3.9.4	致命的エラーメッセージ	27
3.9.5	詳細なメッセージ	27
3.10	エラーダイアログ	28
4	BlcCom2 ソフトウェアのアンインストール	29

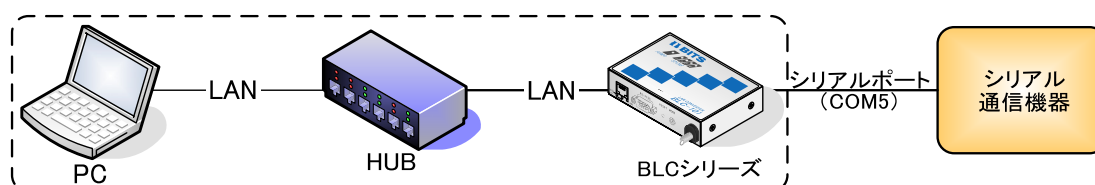
1 「BlcCom2」を使う前に

1.1 概要

BlcCom2 を使用すると、LAN上に接続しているBLCシリーズのシリアルポートをPCのCOMポートの一つとして使用することができます。PC上で動作するCOMポートを使用したアプリケーションは、ソフトウェアの変更をせずにLAN上のBLCシリーズのCOMポートに接続されたシリアル通信機器と通信することが可能です。

接続例

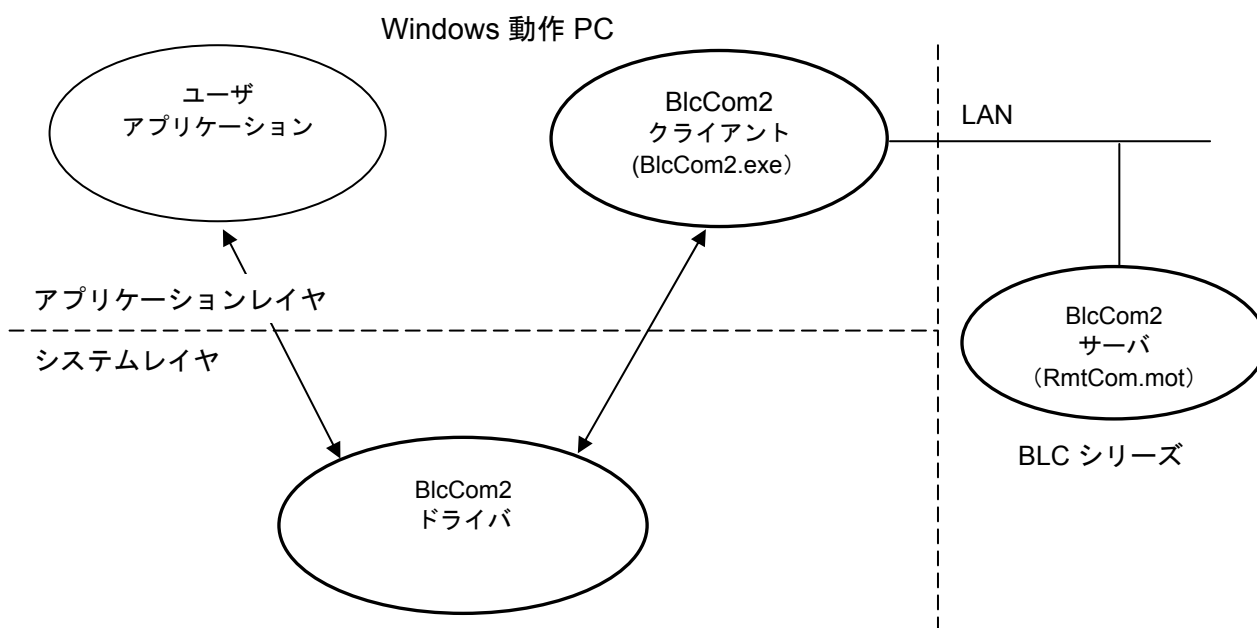
* PC 上で BlcCom2 を動作させて、BLC シリーズを COM5 と設定した場合



1.2 構成

BlcCom2 は、以下の 3 つの構成で動作します。最大 64 台の BLC シリーズのシリアルポートを 1 台の PC から使用することができます。

- ① BlcCom2 クライアント (BlcCom2.exe)
- ② BlcCom2 ドライバ
- ③ BlcCom2 サーバ (BLC シリーズ上 RmtCom .mot)



構成図

BlcCom2 クライアント

Windows 用アプリケーションで、マルチコネクションのソケットクライアントとして動作し、BlcCom2 ドライバおよび BLC シリーズ上で動作している BlcCom2 サーバと通信します。

BLC シリーズの管理 (IP、ポート番号等) を行います。

BlcCom2 ドライバ

COM ポートをエミュレートするドライバです。COM ポートへのデータを BlcCom2 クライアントへ、BlcCom2 クライアントからのデータを COM ポートへ転送します。

BlcCom2 サーバ

BLC シリーズ用のアプリケーションで、シングルコネクションのソケットサーバとして動作し、BlcCom2 クライアントと通信を行います。BLC シリーズを起動すると、BLC シリーズ動作パラメータの自ポート番号でリッスンを開始します。接続があるとコネクションを開設し、データの送受信処理、制御線状態の管理などを行います。

1.3 システム動作条件・一般仕様

No	項 目	内 容
1	対応 OS	Windows2000/WindowsXP/WindowsVista/Windows7
2	PC 環境	CPU : Pentium90M Hz 以上推奨 メモリ : 8M Byte 以上の空きを推奨 HDD : 4M Byte 以上の空きを推奨 CRT : VGA (640×480) 以上推奨 ※TCP/IP および LAN が動作していること ※Microsoft Internet Explorer6.0 以上がインストール済みであること ※使用ポート数によっては更に多くのメモリが必要です。
3	LAN 環境	10BASE-T/100BASE-TX
4	BlcCom2 動作	①BlcCom2 クライアント (BlcCom2.exe) 起動中 ②BlcCom2 ドライバ インストール済み ③BlcCom2 サーバ (BLC シリーズアプリ) 動作中 上記の要件をすべて満たす場合に動作します。
5	BlcCom2 ポート数	MAX 64 ポート ※既存 COM ポートは使用不可 (COM1 等)
6	回線速度※1	1843.2k、921.6k、614.4k、460.8k、230.4k、115.2k、57.6k、38.4k、19.2k、9600、4800、2400、1200、300、110
7	データ長	8bit、7bit
8	ストップビット	1bit、2bit
9	通信制御	なし、XON/XOFF、RTS/CTS
10	制御線	RTS、CTS、DSR、DTR、DCD リアルタイムに更新
11	COM オープン	ユーザアプリケーションにて CreateFile API でオープン
12	COM クローズ	ユーザアプリケーションにて CloseHandle API でクローズ
13	COM ポートの登録／削除	BlcCom2 アプリケーションにて設定、要 PC の再起動

※1 BLC シリーズにより異なります。各 BLC シリーズの仕様以外の回線速度はご使用になれません。指定しないでください。

1.4 制限事項

BlcCom2 クライアント／ドライバ

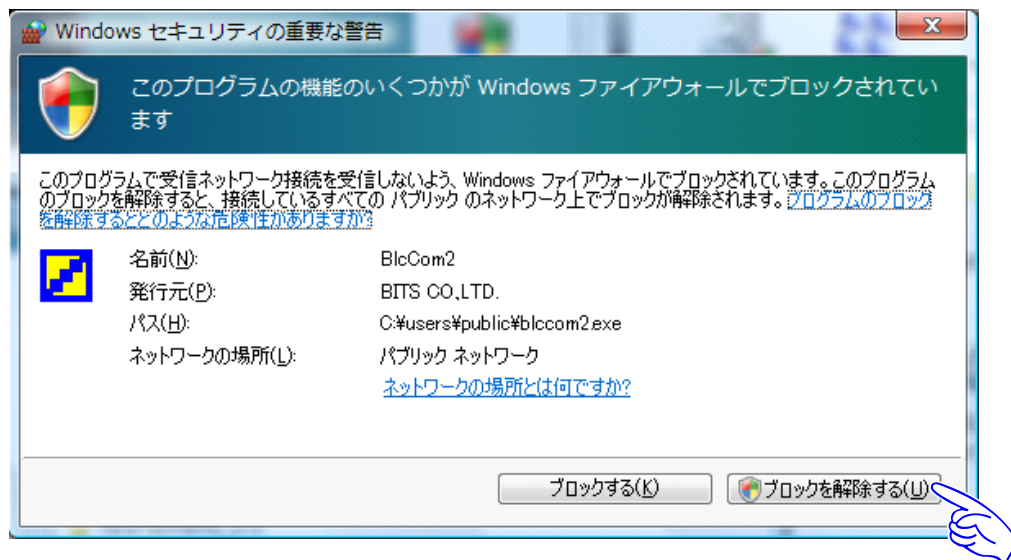
- ・ 実行する PC のオペレーティングシステムやサービスパックその設定、環境等により、正常に動作しない場合があります。また、表示内容も異なる場合がございますので、予めご了承の程、お願いいたします。
- ・ ブレーク信号の検出はサポートしていませんので、ブレーク信号の検出が必要なアプリケーションは動作しません。ブレーク信号の出力はサポートしていますが、出力時間は、BlcCom2 クライアントのオプション設定値によって決まります。
- ・ BLC シリーズでサポートしていない通信パラメータは使用できません。したがって、送信受信で異なるフロー制御パラメータを設定することや XON/XOFF キャラクタの変更などはサポートしていません。BLC シリーズでサポートしている通信パラメータの詳細については、該当 BLC シリーズのマニュアルを参照してください。
- ・ データ、制御線変化の遅延時間
データ、制御線情報は LAN を介して出力、入力する関係上データの遅延、制御線変化の遅延が発生します。遅延時間は、PC の動作環境、LAN 環境にもより一概に規定できませんが、20ms (MIN) 程度は発生致します。
- ・ Win16API アプリケーション
Win16API アプリケーションで CallBack ルーチンにて各処理をするアプリケーションでは、実際の COM ポートドライバと Call タイミングが異なりますので、動作が極端に遅くなったり正常に動作しなくなったりすることがあります。
- ・ Windows Vista / Windows 7 上での実行
Windows Vista / Windows 7 上で実行する場合は、管理者権限が必要です。また、管理者権限での実行が必要なことから、スタートアップでの実行はブロックされます。UAC(ユーザーアカウント制御)機能を無効にするかまたは、「タスクスケジューラ」へ変更してください。

- ・ Windows XP/ Windows Vista / Windows 7 ファイアウォール機能

Windows XP/ Windows Vista / Windows 7 のファイアウォール機能が有効に設定されていると LAN アダプタとの通信が正常に行なえない場合があります。一時的にファイアウォール機能を無効に設定するか、「Windows セキュリティの重要な警告」ダイアログが表示されたときに「ブロックを解除する」ボタンを選択して、本ツールをご使用ください。

「ブロックを解除する」を選択すると、ファイアウォール設定の「例外」対象に設定され以降は警告ダイアログが表示されなくなります。

(ファイアウォール設定の変更には管理者権限が必要になります。)



動作確認済みアプリケーション

- ・ ターミナルソフト …… ハイパーターミナル、TeraTermPro など
- ・ Windows 設定（コントロールパネル）モデムの検出
 - ※ PC 動作状態、通信タイミングによっては問題が発生する可能性があります。

2 BlcCom2 ソフトウェアのインストール

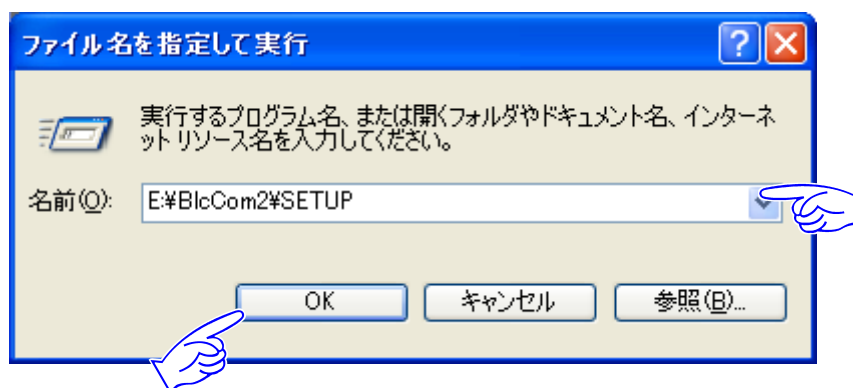
BlcCom2 を使用するために、PC 側および BLC シリーズ各本体側に適切なソフトウェアをインストールし、インストール後に各ソフトウェアの設定を行わなくてはなりません。以降の手順に従いセットアップを行ってください。

2.1 PC側ソフトウェアのインストール

PC へ必要なソフト（BlcCom2 クライアント、BlcCom2 ドライバ）をインストールします。以下のページでは、WindowsXP を例にインストールを行っています。WindowsVista や Windows7 などにインストールする場合もほぼ同様の手順となります。

※ 以前のバージョンの BlcCom2 または Blc101Com がインストールされている場合は、新しいバージョンの BlcCom2 をインストールする前に、「アプリケーションの追加と削除」またはアンインストールによって以前のバージョンの BlcCom2 または Blc101Com を削除してください。

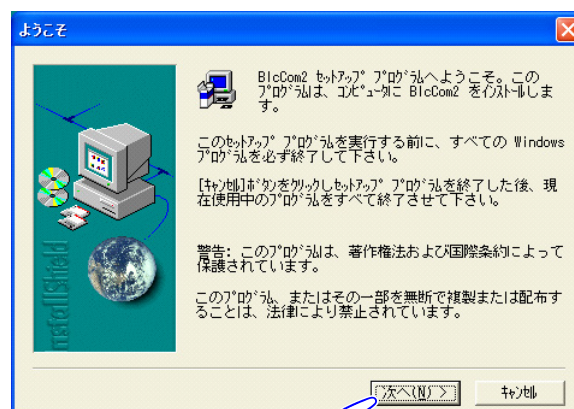
- (1) PC の電源を投入し、Windows を起動します。
- (2) セットアップディスクをコンピュータにセットします。
- (3) Windows の[スタート]ボタンをクリックし、メニューから「ファイル名を指定して実行...」を選択します。
- (4) 表示されたダイアログに、セットアップディスクをセットしドライブ名と実行コマンド「SETUP」を半角で入力し、「OK」ボタンをクリックします。



- ①半角で入力します
「E:\」はインストーラのコンパクトディスクをセットしたドライブ名で置き換えてください。
また、フォルダにコピーした場合はそのフォルダ名のフルパスに置き換えてください。
- ②入力完了後、クリックします

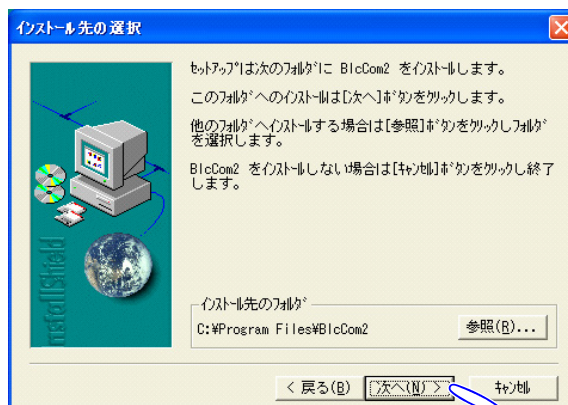
(5) 画面が表示されたら、「次へ」ボタンをクリックします。

内容を確認してください。



(6) 「次へ」ボタンをクリックします。

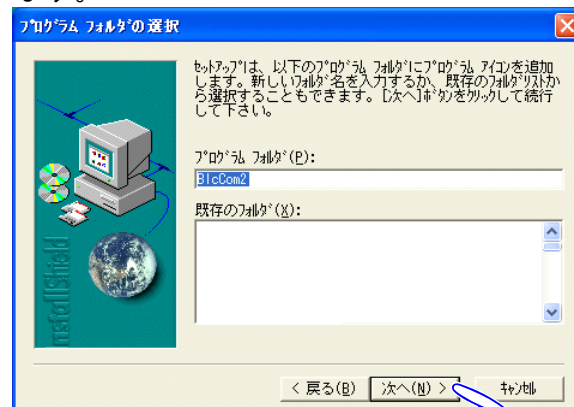
インストール先のフォルダを変更する場合は、「参照」ボタンをクリックしてインストール先フォルダを選択してください。



(7) 「次へ」ボタンをクリックすると、実際のインストール作業が行われます。

プログラムアイコン作成先のフォルダを変更する場合は、フォルダ名を入力してください。なお、「スタートアップ」には必ずプログラムアイコンを追加します。

- ※ プログラムアイコン作成先のフォルダは、初期設定では「BlcCom2」となっております。設定を変更せずにインストールを完了しますと、[スタート]メニューの「プログラム」内に「BlcCom2」というフォルダが新規登録されます。



(8) 「完了」ボタンをクリックします。

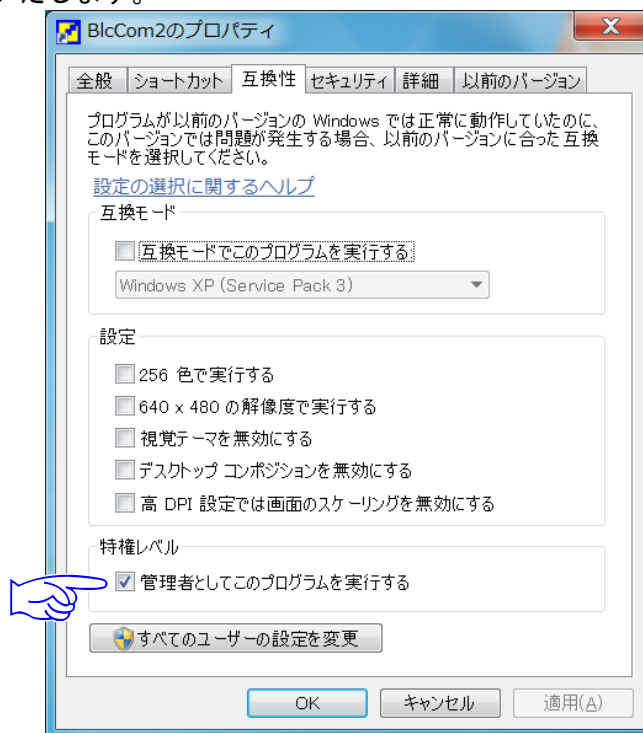
インストールが完了すると、右の画面が表示されます。完了ボタンを押してセットアップを終了してください。



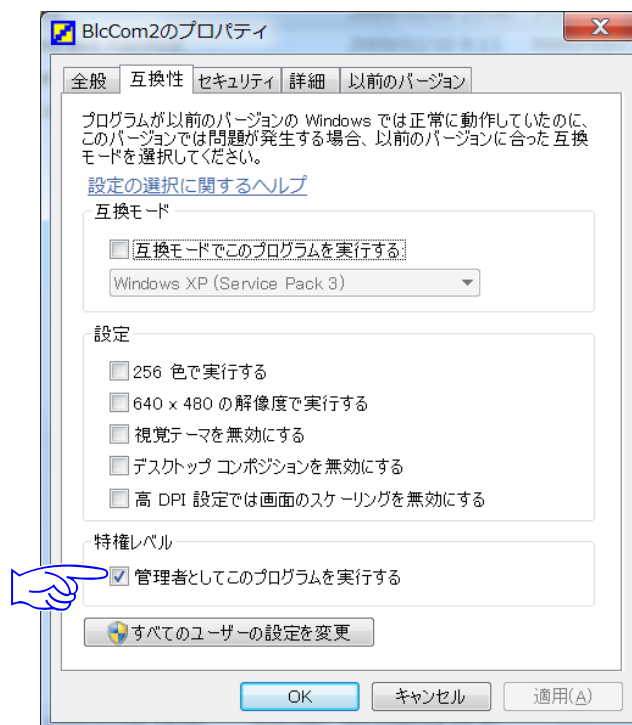
インストール完了後、「3 BlcCom2 の使い方」を参照してBlcCom2 クライアントアプリケーションを起動し、COMポートの新規登録を行います。COMポートの登録後は、PCを再起動する必要があります。再起動後、登録されたCOMポートが使用可能になります。

(9) Windows Vista / Windows 7 の場合

Windows Vista / Windows 7 上で実行する場合は、管理者権限が必要です。インストール完了後次のプロパティにチェックすることをお奨めいたします。



インストール完了後、「スタート」「すべてのプログラム」新規登録されたフォルダのショートカット「BlcCom2」のプロパティ「互換性」特権レベルの「☒管理者としてこのプログラムを実行する」にチェックを行い



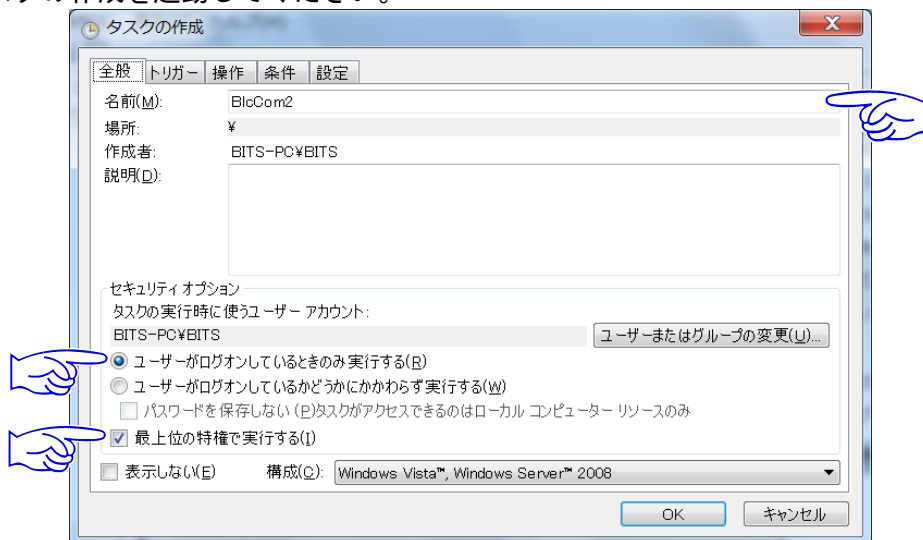
同じようにインストール先のフォルダの「BlcCom2.exe」プロパティ「互換性」特権レベルの「☒管理者としてこのプログラムを実行する」にチェックを行ってください。

また、Windows Vista / Windows 7 において、UAC(ユーザーアカウント制御)機能の関係でスタートアップでの実行がブロックされる場合があります。その場合は、「タスクスケジューラ」によるスタート方法に変更されることをお奨めいたします。

タスクスケジューラへの登録方法例は次の通りです

まず、スタートメニューの「プログラムとファイルの検索」に「タスク」と入力し、ショートカットを呼び出しタスクスケジューラを起動してください。

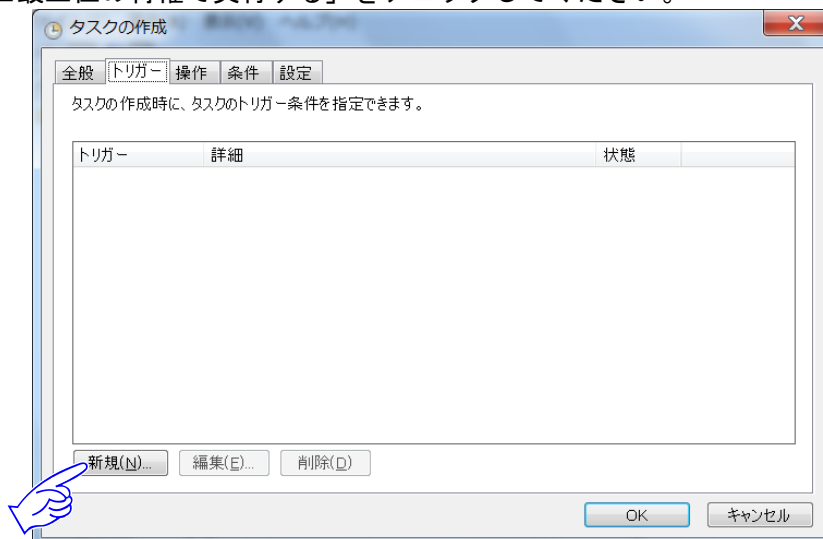
タスクスケジューラ右の「操作」>「タスクスケジューラライブラリ」>「タスクの作成」をクリックし、タスクの作成を起動してください。



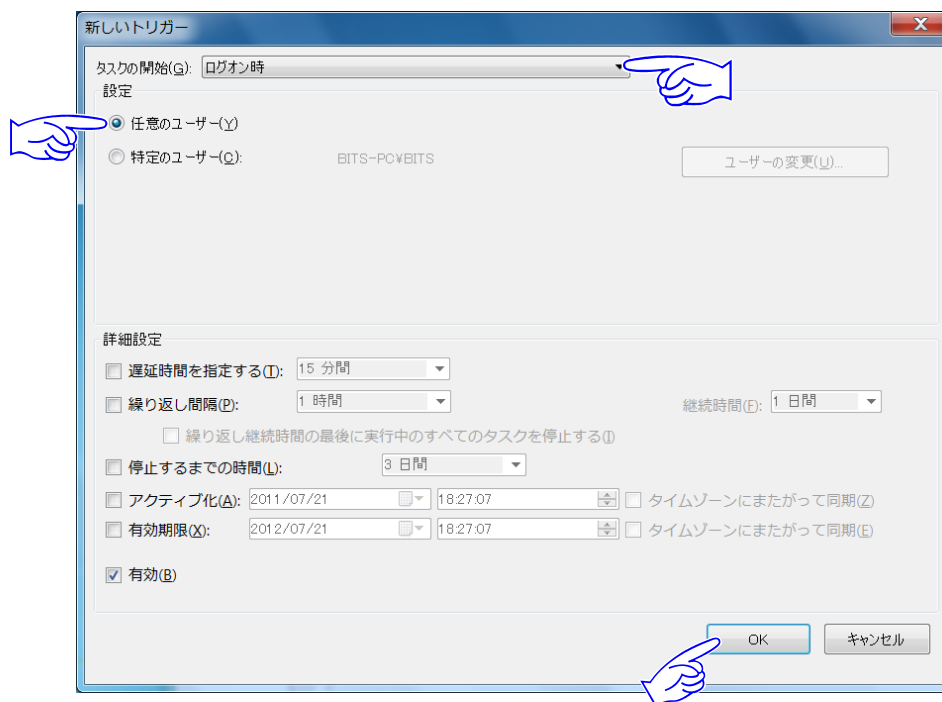
[全般]タブでは次の設定行ってください。

「名前」は任意の名称を設定。

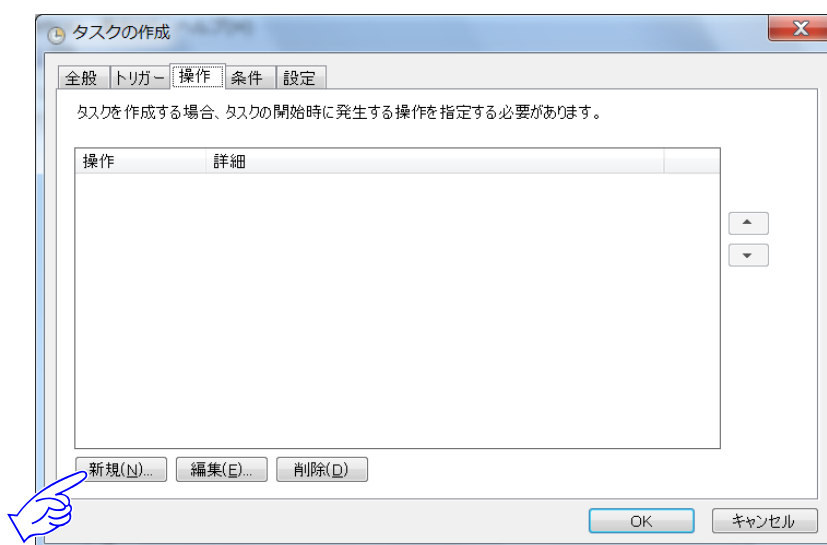
セキュリティオプションの「ユーザーがログオンしているときのみ実行する」を選択して、「☒最上位の特権で実行する」をチェックしてください。



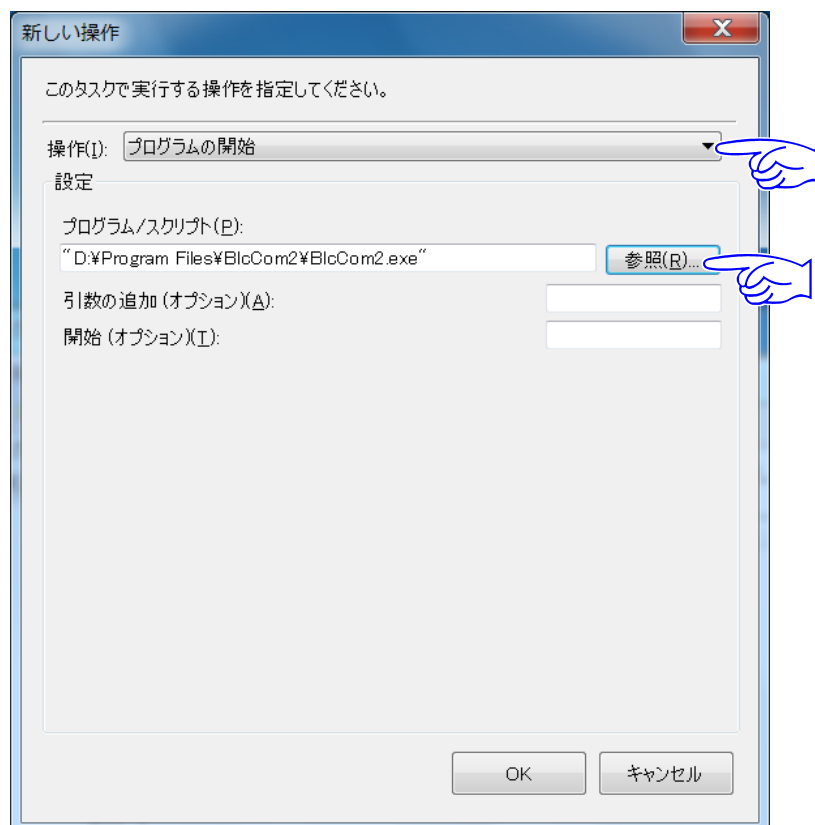
[トリガー]タブの新規ボタンを押してください。



新しいトリガーが表示されたら、タスクの開始は「ログオン時」を選択してください。
設定は「任意のユーザー」を選択し、OK ボタンを押してください。



[操作]タブの新規ボタンを押してください。



新しい操作が表示されたら、操作は「プログラムの開始」を選択してください。

「プログラム/スクリプト」は参照ボタンでスタートアップで起動したいプログラム「BlcCom2.exe」を指定してください。

指定したら OK ボタンを押してください。

その他の「条件」「設定」は必要に応じて設定（変更）願います。

なお、この「タスクスケジューラ」へ変更した場合は、必ず「スタートアップ」に設定されている「BlcCom2」を削除願います。

2.2 BLCシリーズのセットアップ

(1) BLC シリーズの IP アドレス設定

BLC シリーズのセットアップとしては、BLC シリーズの自 IP アドレスの設定を行います。その際に、PC と通信可能な IP アドレスであること、他の機器と IP が重複しないことに注意してください。

また、この IP アドレスは、COM の新規登録・更新時に使用します。BLC シリーズに設定されている IP アドレスとその BLC シリーズを何番の COM ポートとして使用するかを明確にしておいてください。

IP アドレスの設定につきましては、別冊の「BLC シリーズ セットアップマニュアル」、「BLC シリーズ リモートセットアップ オペレーションマニュアル」を参照してください。

(2) BLC シリーズの起動設定

BLC シリーズのロータリスイッチを 0 番に設定して起動します。

(3) BlcCom2 サーバのダウンロード

BLC シリーズ上で動作する BlcCom2 サーバは、PC 側ソフト (BlcCom2 クライアント、BlcCom2 ドライバ) からダウンロードすることができます。

COM ポートの新規登録と更新、「BlcCom2 サーバのダウンロード」の項を参照してください。

この操作は、新規に BLC シリーズを導入する際や、ソフトウェアのバージョンアップがされた際に一度行えば BLC シリーズ内に保持されますので以降は行う必要がありません。

3 BlcCom2 の使い方

3.1 BlcCom2 の起動と終了

BlcCom2 クライアントを起動する

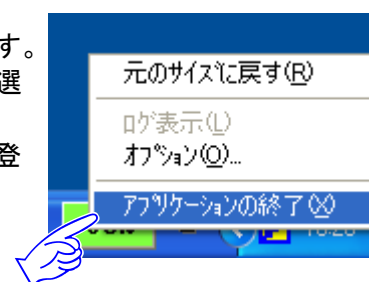
インストールが正常に終了していると、[スタート]メニューの「プログラム」内に「BlcCom2」が登録されています。「BlcCom2」メニュー内の「BlcCom2」アイコンを選択し、クリックしてください。

BlcCom2 クライアントが起動するとスタート画面を表示し、タスクバーにアイコンを表示します。スタート画面は起動後、自動的に消えます。

BlcCom2 クライアントを終了する

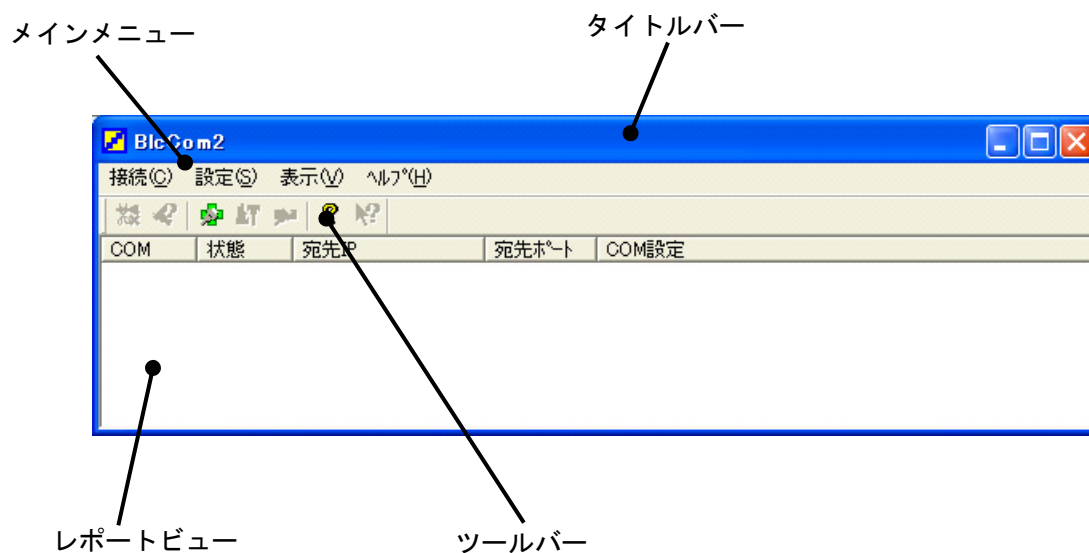
タスクバーの BlcCom2 アイコンをポイントし、右クリックします。開いたポップアップメニューから「アプリケーションの終了」を選択し、左クリックすると BlcCom2 クライアントを終了します。

BlcCom2 クライアントを終了すると、本ソフトウェアによって登録されたリモート COM ポートは使用できなくなります。



3.1 メインウィンドウと各部の機能

タスクバーの BlcCom2 アイコンをダブルクリックすると、メインウィンドウが表示されます。レポートビューには登録が完了している COM ポートが表示されます。本ソフトウェアのインストール後、最初に起動したときは未登録状態ですので BLC シリーズは 1 つも表示されません。



メインウィンドウでは、コネクション開設や切断、設定状態や接続状態の表示をします。また、メニューなどにより登録・更新・削除の各機能の呼び出しを行います。

以降のページで、各部の機能を説明します。

タイトルバー

アプリケーション名を表示します。

メインメニュー

「接続」「設定」「表示」「ヘルプ」をトップメニューとし、以下の表のように構成されます。選択できないメニューは淡色で表示されます。

メニュー	サブメニュー	内容
接続	切断	登録リストで選択された接続中の BLC シリーズから強制切断します。
	個別接続テスト	登録リストで選択された未接続の BLC シリーズと接続可能かテストします。
	一括接続テスト	登録リストにある全ての BLC シリーズに対して接続可能かテストします。
	アプリケーションの終了	BlcCom2 を終了します。終了時に設定情報などを保存します。
設定	新規登録...	COM ポートと対応する BLC シリーズを追加するダイアログボックスを表示します。
	更新...	登録リストで選択された登録済みの設定を変更するダイアログボックスを表示します。
	削除	登録リストで選択された COM ポートを削除します。
	オプション...	動作オプション設定用のダイアログボックスを表示します。
表示	ログ表示...	ログファイルを閲覧する簡易ログビューワの表示、非表示を切り替えます。
	ツールバー	ツールバーの表示・非表示を切り替えます。
ヘルプ	バージョン情報	本アプリケーションの詳細なバージョン情報を表示します。

ツールバー

各機能をすばやくアクセスできるようにします。選択できないボタンはグレーで表示されます。
 左から、「切断」「個別接続テスト」「新規登録」「更新」「削除」「バージョン情報」にそれぞれ対応します。



レポートビュー

登録リストを表示します。

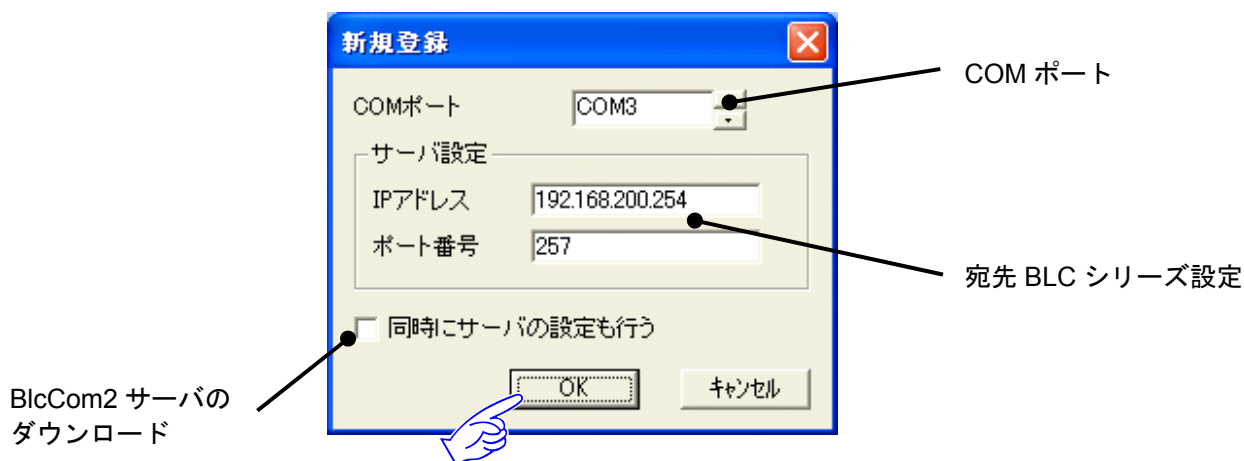
項 目	内 容
COM	COM ポートの番号
状態	ポートが接続中であるか切断状態にあるかを表示 接続テストの結果を表示
宛先 IP	COM ポートと対応する BLC シリーズの IP アドレス
宛先ポート	COM ポートと対応する BLC シリーズのポート番号
COM 設定	COM ポートに設定されている通信パラメータ

3.4 COMポートの新規登録と更新

COM ポートと対象の BLC シリーズの関連付けなどを行います。BlcCom2 を使用するため、本ソフトウェアのインストール後 COM ポートの登録を行ってください。

設定ダイアログボックスを表示する

レポートビュー上の COM ポートを未選択の状態メニューから「設定」→「新規登録」または、レポートビュー上の COM ポートを選択した状態でメニューから「設定」→「更新」を選択すると設定ダイアログが表示されます。



●COMポート

登録対象または変更対象の COM ポート番号を選択します。すでに登録済みのポート番号は使用できません。また、更新の場合、COM ポートの変更はできません。

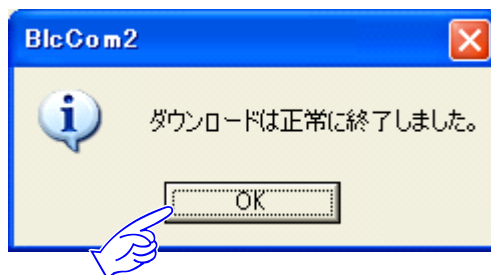
※ 新規登録の場合、シリアル通信パラメータは初期値（ボーレート：9600bps、データ長：8bit、パリティ：なし、ストップビット長：1bit、フロー制御：なし）になります。このパラメータをレジストリに登録します。

●宛先BLCシリーズ設定

宛先となる BLC シリーズの IP アドレスとポート番号を入力します。このパラメータは BLC シリーズと通信するためのものです。したがって、宛先となる BLC シリーズの自 IP アドレス、自ポート番号と同じ値を入力してください。

●BlcCom2 サーバのダウンロード

図中の「同時にサーバの設定も行う」部をチェックして OK ボタンを押すと、宛先 BLC シリーズに自動的に BlcCom2 サーバ（RmtCom.MOT）をダウンロードします。ダウンロードが正常に終了すると以下の画面が表示されます。



- ※ BlcCom2 サーバのダウンロードをする場合は、BLC シリーズのロータリ SW を「0」に設定してください。
- ※ BlcCom2 サーバのダウンロードをする際に、弊社製の「BLC シリーズリモートセットアップ」を起動していると正常にダウンロードできません。
BlcCom2 サーバをダウンロードする場合は「BLC シリーズリモートセットアップ」が起動していないことを確認してから行ってください。

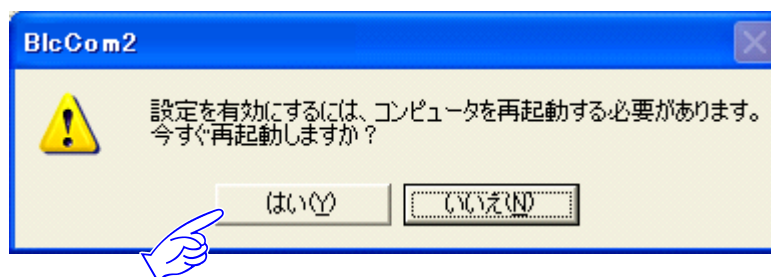
ユーザアプリケーションとシリアル通信パラメータの関係

シリアル通信パラメータ（COM 設定値）は、下記設定値となります。

- ① BlcCom2 起動時（ユーザアプリケーションが CreateFile にて COM ポートをオープンする）は、レジストリに保存されているシリアル通信パラメータの設定値で COM をオープンします。
- ② ユーザアプリケーションが通信パラメータを変更（ユーザアプリケーションが SetCommStatus を発行する）すると変更された値となります。このとき、BLC シリーズ側では COM の再オープンが行われます。

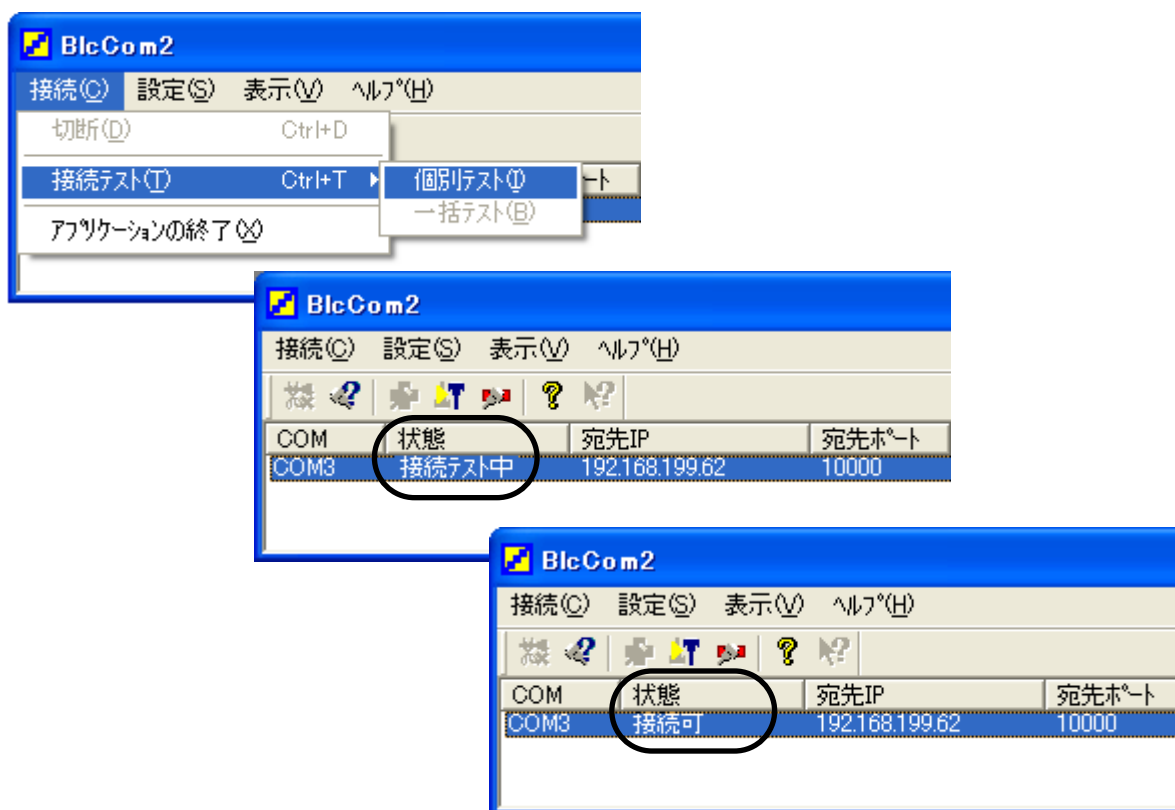
COM ポートを登録する

設定ダイアログボックスの「OK」ボタンが押されると登録を実行します。新規登録時はシステムへ登録するため、再起動プロンプトを表示しますので、PC の再起動を行ってください。新規登録した COM ポートは、再起動後に有効になります。



3.4 対応するBLCシリーズとの接続テスト[個別テスト]

レポートビュー上の COM ポートを選択した状態で「接続」→「接続テスト」→「個別テスト」を選択すると、個別接続テストダイアログが表示され、設定された BLC シリーズとの接続テストを行います。BlcCom2 ポートとして使用可能であれば、レポートビュー上の状態が「接続可」に変わります。



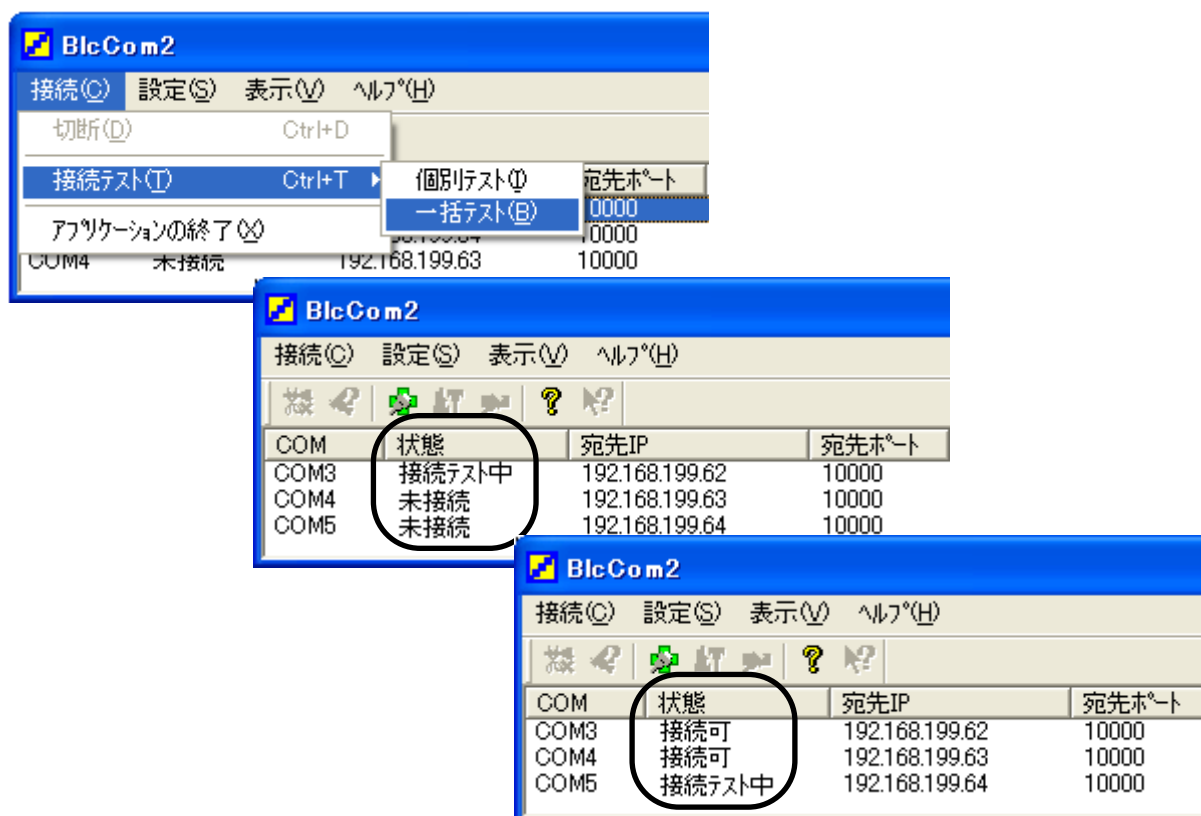
個別接続テストダイアログ



- COM
接続テスト中の COM を表示
- 状態
現在の状態と結果を表示
- Driver Version
リモート COM のドライバのバージョンを表示
- Server Version
BLC シリーズサーバプログラムのバージョンを表示

3.5 登録リストにある全てのBLCシリーズに対する接続テスト[一括テスト]

レポートビュー上に2つ以上のCOMポートが登録されている状態で「接続」→「接続テスト」→「一括テスト」を選択すると、一括接続テストダイアログが表示され、登録されている全てのBLCシリーズと順次接続テストを行います。BlcCom2 ポートとして使用可能であれば、レポートビュー上の状態が「接続可」に変わります。



一括接続テストダイアログ

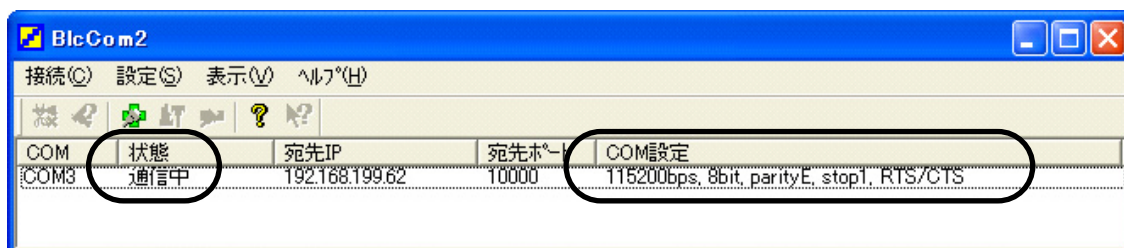


- COM
登録されている COM を表示
- 状態
現在の状態と結果を表示
- Driver Version
リモート COM のドライバのバージョンを表示
- Server Version
BLC シリーズサーバプログラムのバージョンを表示

3.6 登録したCOMポートをアプリケーションからオープンする

正常に登録ができると、通信ソフトなどの COM を使用するアプリケーション（ハイパーターミナルなど）から登録済みの COM ポートを選択できるようになります。使用する COM ポートの選択方法など詳しくはそれぞれのアプリケーションのマニュアルを参照してください。

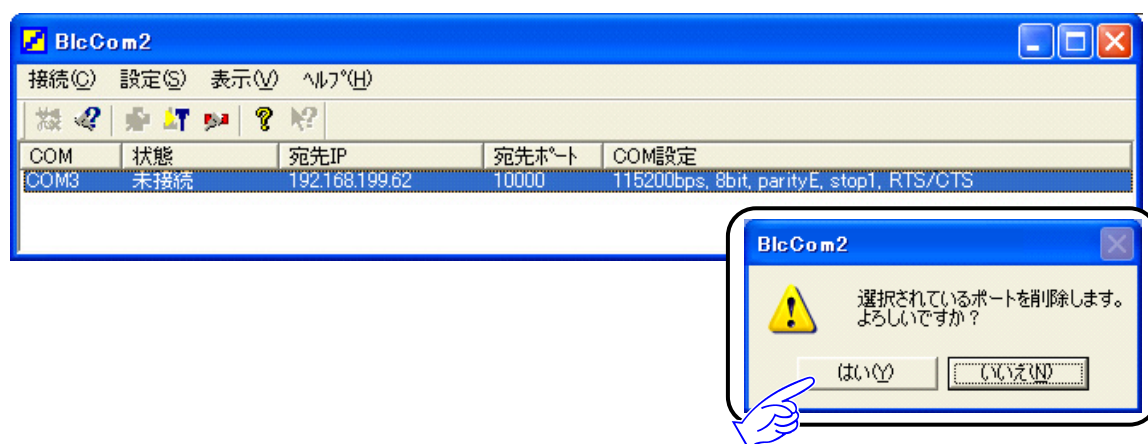
通信ソフトなどのアプリケーション（ハイパーターミナルなど）から登録済みの BlcCom2 ポート（COM5 など）をオープンすると、レポートビュー上の該当する COM ポートの状態が「通信中」に変わります。また、COM 設定に現在のシリアルパラメータが反映されます。



状態が「通信中」のとき、アプリケーションから送信したデータは、宛先の BLC シリーズのシリアルポートから送信され、宛先の BLC シリーズから受信したデータはアプリケーションで受信できます。また、アプリケーションからの制御線コントロールや制御線ステータスの取得も宛先 BLC シリーズのシリアルポートに反映します。

3.7 登録したCOMポートを削除するには

レポートビュー上の COM ポートを選択した状態で「設定」→「削除」を選択すると、COM ポートの登録を解除し、レポートビュー上から COM ポートを削除します。

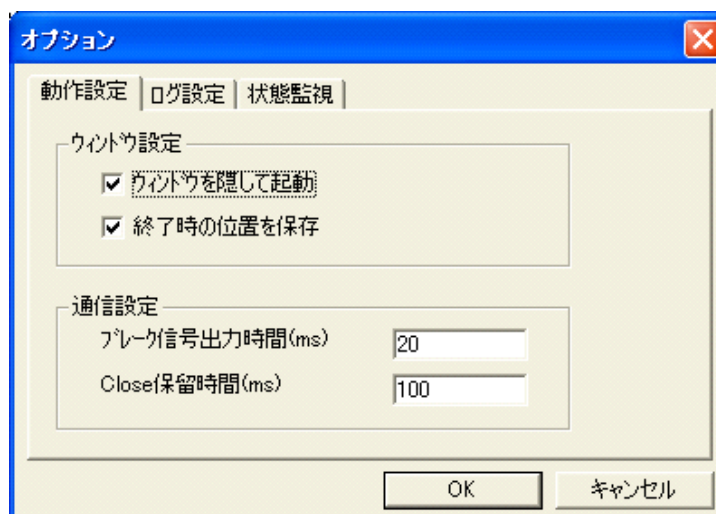


3.8 オプションの設定

メインメニューから「設定」→「オプション」を選択すると、BlcCom2 クライアントのオプション設定を変更できます。

動作設定タブ

BlcCom2 クライアントの動作設定を変更できます。



●ウィンドウを隠して起動

チェックボックスをオンにすると、メインウィンドウを隠して起動します。チェックボックスをオフにすると、BlcCom2 起動時にメインウィンドウを表示するようになります。デフォルトの設定はオンです。

●終了時の位置を保存

チェックボックスをオンにすると、終了時のメインウィンドウの表示位置を記憶し、次の起動時にその時の位置とサイズで起動します。チェックボックスをオフにすると、起動時にデフォルトの位置とサイズで起動します。デフォルトの設定はオンです。

●ブ레이크信号出力時間

出力するブ레이크信号長を ms 単位で設定します。設定範囲は 10－10000ms で、デフォルトは 20ms 設定です。

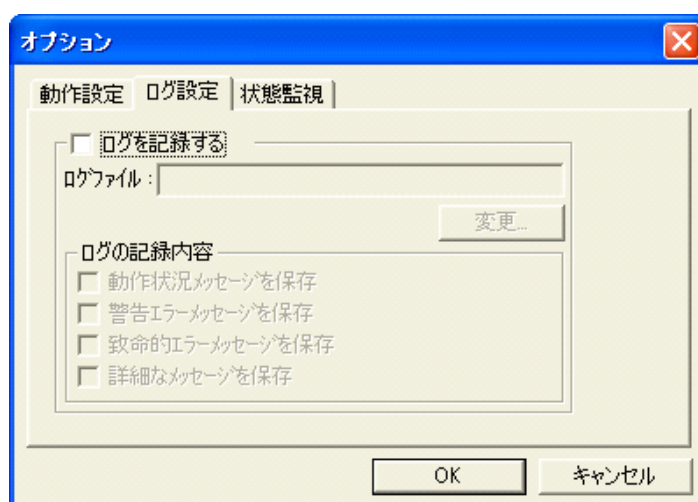
●Close保留時間

ユーザアプリケーションが Close (CloseHandle) してから、TCP ソケットを切断するまでの保留時間を ms 単位で設定します。Close-Open の間隔が短いユーザアプリケーションでは、保留中の再オープンとなることで、TCP ソケットの切断－接続を省くことができます。

設定範囲は 0－65535ms で、デフォルトは 100ms 設定です。

ログ設定タブ

BlcCom2 クライアントのロギング動作の設定を変更できます。

**●ログを記録する**

チェックボックスをオンにすると、指定のログファイルに動作のロギングを行います。チェックボックスをオフにするとロギングを停止し、以降の設定は全て無効になります。デフォルトの設定はオフです。

●ログファイル

ログが記録されるファイルを指定します。ログファイルを変更するには「変更」ボタンをクリックするとファイル選択ダイアログボックスが表示されますので、入力または選択してください。

通常、インストールディレクトリと BlcCom2.log ファイル名を指定します。

C:¥Program Files¥BlcCom2¥BlcCom2.log

なお、ログファイルは常にアPENDモードで書かれますので、ディスク容量が十分でない場合はロギングを停止するか、ログファイルを削除してください。

●ログの記録内容

記録するログの内容を設定します。デフォルトでは全てオフ設定となっています。
ログ内容については「3.9ログ表示」を参照ください。

①動作状況メッセージ

OPEN、CLOSEなど動作状態をログします。

②警告エラーメッセージ

ソケットのコネクションエラーなど、発生した警告または、エラーをログします。

③致命的エラーメッセージ

リモートCOMシステムが動作不可となるようなエラーをログします。

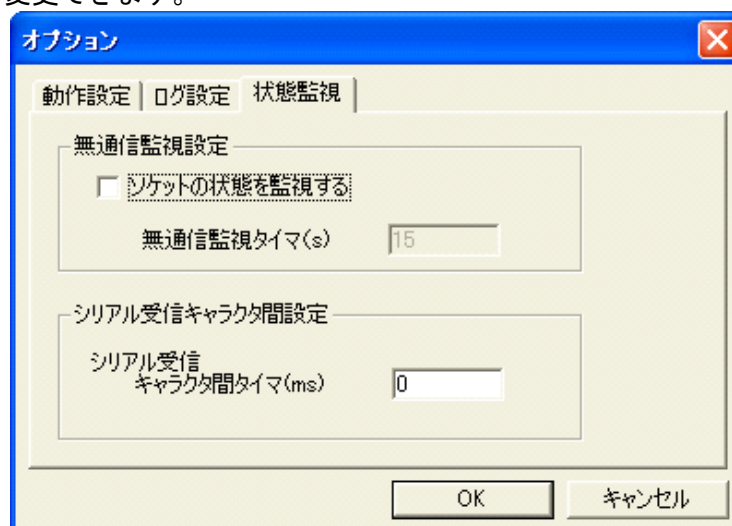
④詳細メッセージ

動作状況の詳細なログをします。

※ “詳細メッセージ” は、弊社サポート用に用意されています。ログの量が増え動作速度にも影響いたしますので、通常は設定しないでください。

状態監視タブ

状態監視の設定を変更できます。

**●ソケットの状態を監視する**

チェックボックスをオンにすると BlcCom2 サーバと BlcCom2 クライアントとの無通信の監視をします。チェックボックスをオフにすると無通信監視タイムの設定は無効になります。デフォルトの設定はオフです。

●無通信監視タイム

監視する無通信時間を s 単位で設定します。設定範囲は 3～120s で、デフォルトは 15s 設定です。

●シリアル受信キャラクタ間タイム

BlcCom2 サーバがシリアルからのデータを受信してから BlcCom2 クライアントにデータを送信するまでの無通信時間を ms 単位で設定します。設定範囲は 0～3000ms で、デフォルトは 0ms 設定です。

オプションを設定する

オプションを設定するには「OK」ボタンをクリックしてプロパティシートを閉じます。設定せずに閉じるには「キャンセル」ボタンをクリックしてプロパティシートを閉じます。

3.9 ログ表示

表記：%d、%xにはログに関連する数値が入ります。

3.9.1 フォーマット

(例) | 2001/06/28 13:06:16 OwnerPort open OK(0x38) !!!

①	②	③	④
区分	日付	時刻	メッセージ

① 区分	
I	動作状況メッセージ
W	警告エラーメッセージ
F	致命的エラーメッセージ
—	詳細メッセージ
② 日付	ログをした日付
③ 時刻	ログをした時刻
④ メッセージ	ログメッセージ

3.9.2 動作状況メッセージ

"OwnerPort open OK (0x%x) !!!"

Windows98 版、リモート COM アプリケーションが動作可能。

"Driver Version %d.%d.%d load OK (0x%x) !!!"

Windows98 版、Vxd ドライバ使用可能。

Windows NT4.0/Windows 2000/ Windows XP 版、Sys ドライバ使用可能。

"COM%d:Socket CONNECT"

COM ポートに対応するソケットのコネクションが開設された。

"COM%d:Socket CLOSE"

COM ポートに対応するソケットのコネクションが開放された。

"COM%d:Socket CLOSE (Receive) "

COM ポートに対応するソケットのコネクションが相手から切断された。

"COM%d:CMD CLOSE"

COM ポートにクローズ要求がされた。

"COM%d:CMD PARAM"

COM ポートにパラメータ設定がされた。

"COM%d:CMD LINE"

COM ポートに制御線情報設定がされた。

"COM%d:Test CONNECT"

接続テスト用コネクションが開設した。

"COM%d:Test CLOSE"

接続テスト用コネクションが開放した。

"COM%d:Test CLOSE (Receive) "

接続テスト用コネクションが相手から切断された。

3.9.3 警告エラーメッセージ

"COM%d:Socket Connect FAIL"

ソケットのコネクションエラー。

(対処) COM ポートの宛先 IP、宛先ポートが正しく設定されているか確認してください。また、BLC シリーズの電源が入っているか BlcCom2 サーバが起動しているか確認してください。

"COM%d:Socket Receive PORT error(0x%x)"

受信データパケットの COM ポート番号フィールドエラー。

(対処) BLC シリーズで BlcCom2 サーバが起動しているか確認してください。

"COM%d:Socket Receive LEN error(0x%x)¥r¥n"

受信データパケットのレングスフィールドエラー。

(対処) BLC シリーズで BlcCom2 サーバが起動しているか確認してください。

"COM%d:Socket RECEIVE TimeOut"

受信データパケットのタイムアウト。

(対処) LAN ケーブルが正しく接続されているか確認してください。

"COM%d:Test COM Open error "

接続テストの COM オープンエラー

(対処) COM の新規登録後に PC の再起動をしているか確認してください。また、他のアプリケーションがすでにその COM ポートをオープンしていないか確認してください。

(注意) 一括接続テストの実行時に、すでに通信中の COM ポートに対して接続テストが行われた場合はこのエラーが出現します。この時、レポートビュー上の表示が「通信中」のままであればエラーではありません。

"COM%d:Test Connect FAIL"

接続テストのコネクションエラー。

(対処) COM ポートの宛先 IP、宛先ポートが正しく設定されているか確認してください。また、BLC シリーズの電源が入っているか BlcCom2 サーバが起動しているか確認してください。

"COM%d:Test Receive error(0x%x)"

接続テストの受信パケットエラー。

(対処) LAN ケーブルが正しく接続されているか確認してください。

"COM%d:Test Receive LEN error(0x%x)"

接続テストの受信データパケットのレングスフィールドエラー。

(対処) BLC シリーズで BlcCom2 サーバが起動しているか確認してください。

"COM%d:Test Response TimeOut"

接続テストデータパケットの応答タイムアウト。

(対処) LAN ケーブルが正しく接続されているか確認してください。

"COM%d:Test RECEIVE TimeOut"

接続テストデータパケットの受信フレームタイムアウト。

(対処) LAN ケーブルが正しく接続されているか確認してください。

"Socket create error(%d)"

接続テスト用のソケット作成エラー。

(対処) PC が LAN を使用できる環境となっているか確認してください。

"Socket [%s:%d] connect error(%d)"

接続テスト用ソケットのコネクション発行エラー。

(対処) PC が LAN を使用できる環境となっているか確認してください。

3.9.4 致命的エラーメッセージ

"OwnerPort open NG(0x%x) !!!"

リモート COM システム動作可能とするためのオーナーポートオープンエラー。

(対処) PC に再度 BlcCom2 を正しくインストールしてください。

"Vxd load NG(0x%x) !!!"

リモート COM システムのドライバハンドル取得エラー。

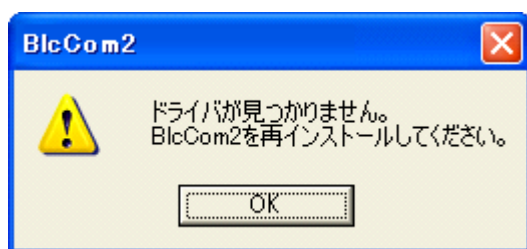
(対処) PC に再度 BlcCom2 を正しくインストールしてください。

3.9.5 詳細なメッセージ

詳細メッセージをログする設定は、弊社からの指示により設定してください。ログ表示内容につきましても弊社宛てご連絡／問い合わせください。

3.10 エラーダイアログ

ドライバロードエラーダイアログ



(対処) 初期インストール時からこのエラーダイアログが表示される場合、インストールが失敗している可能性があります。再度インストールを行ってください。
そうでない場合、COM が使用中のまま強制終了された可能性があります。PC を再起動してください。

COM 登録エラーダイアログ



(対処) 他の COM を指定してください。

4 BlcCom2 ソフトウェアのアンインストール

BlcCom2 のアンインストールを実行する前に、まず「3.7登録したCOMポートを削除するには」を参照して、登録されているCOMポートを全て削除してください。

BlcCom2 のアンインストールは、[スタート]メニューの「プログラム」内に登録されている「BlcCom2」メニュー内の「BlcCom2 のアンインストール」によって行ってください。

なお、タスクスケジューラに登録をしている場合は、あわせて、タスクスケジューラから削除願います。



〒141-0031 東京都品川区西五反田8-11-13 五反田マークビル9階

TEL : 03-3779-2190

FAX : 03-3779-2198

E-mail : miechan@bits.co.jp

ホームページ : <http://miechan.jp>